

かかりつけ医と医療保険者との協働による「健康なまちづくり」構想

秋田県保険者協議会

目指すところ

慢性疾患の患者等が抱える「社会的孤立・孤独」「雇用」「貧困」「DV・虐待」など、健康に影響を与える社会課題を「社会的処方」(※)により軽減又は解消することにより、病気の重症化予防・フレイル予防や自己管理能力の向上につなげ、ひいては、患者が地域社会において生き生きと健康で暮らせる社会の実現を目指す。

(※)薬の処方など医師の医学的処方に加えて、患者等の健康やwellbeingの向上などを目的に、地域の活動やサービス等につなげること。

概要

- ・かかりつけ医が、診察の場面で患者が抱える社会課題を「問診票」により抽出し、患者の同意のもとで地域の調整役であるリンクワーカーに情報提供する。
- ・かかりつけ医から情報を得たリンクワーカーは、患者の各課題に対応する専門家や社会資源等につなげ、専門家の支援、地域コミュニティの集いの場への参加により課題解決を図る。
- ・リンクワーカーは、社会とのつながりを持った患者と定期的に関わりを持つことにより患者の状況を把握し、関係者が参加する状況報告会で情報共有を図る。

実施体制

- ・モデル実証事業検討委員会及び事業評価委員会を組織し、円滑な事業実施と事業の効果検証等を行う。

構想イメージ

患者・障がい者等のwellbeing向上のための社会的処方

